

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

9. 循環器系の疾患

文献

中江啓晴. 脳梗塞急性期における柴苓湯の有効性. *漢方と最新治療* 2013; 22: 329-32. 医中誌 Web ID: 2014077192

1. 目的

脳梗塞急性期に対する柴苓湯の有効性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

病院神経内科 1 施設

4. 参加者

2010 年 12 月から 2011 年 12 月までの間に入院した急性期脳梗塞患者のうち、口頭で同意を得られた患者 99 名

5. 介入

Arm 1: ツムラ柴苓湯エキス顆粒投与群 1 日 9 g 分 3 毎食後投与を 2 週間 43 名

Arm 2: 非投与群 56 名

6. 主なアウトカム評価項目

NIHSS (National Institutes of Health Stroke Scale)、及び mRS (modified Rankin Scale) の比較

7. 主な結果

入院後 1 週間目以降において、アンケート調査結果において、柴苓湯投与群は有意に症状を緩和した。NIHSS は、入院 2 週間後、柴苓湯投与群は非投与群に比べて有意に改善した ($P=0.020$)。mRS は、柴苓湯投与群は非投与群に比べて入院 1 週間後 ($P=0.020$)、2 週間後 ($P=0.011$) と有意に改善した。

8. 結論

脳梗塞後の急性期に柴苓湯は有効である。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本論文では、脳梗塞急性期における柴苓湯の有効性について、NIHSS と mRS を用いて評価をしている。これにより脳梗塞後の症状に対し、柴苓湯が一定の効果を上げることが分かった。柴苓湯の作用機序には、解明されていない部分も多いので、各項目毎のスコア評価を比較してみると、下肢より上肢の症状のどちらの症状に対して有効であるなど、作用機序の手がかりが掴めるかも知れない。

12. Abstractor and date

中田英之 2017.3.31